

意見発表者7(会場③埼玉県さいたま市)

意見の概要

議論の的となっている公共事業の是非について検証するのであれば、建設推進派と反対派の双方が対等に客観的データに基づいて議論する場が不可欠だ。ところが今回の八ッ場ダムの検証は、事業を推進してきた立場の国交省と各都県の担当者のみで9回も会合を重ね、利水の必要性の前提となる水需要予測の取り方を批判的に問い直すこともなく、そもそも優先度の高い、効果的な治水対策とは何か検討することもなかった。つまり治水上利水上八ッ場ダム建設が必要か、その根本的な議論が欠けている。八ッ場ダムが必要となる治水利水上の目標を設定した上で、ダム以外で同等の効果を発揮する事業を考え出したところ、富士川や千曲川から導水するという荒唐無稽な代替案が出て、各都県から何度も批判を浴び、「やっぱり八ッ場ダム」との結論に至った、というのは、この検証の仕組みからして当然の筋書きであった。八ッ場ダム必要性の根本からの再検証を求める。